

## 開 会 挨拶

伊 藤 正 直

ご紹介いただきました、東京大学経済学図書館長の伊藤でございます。

本日は、「経済学部資料室開室記念シンポジウム」ということで皆様にお集まりいただいておりますが、東京大学経済学図書館をご存じの方は、経済学図書館には以前から資料室があったのに、なぜ今日改めて開室記念式典を行うのかと思われている方もいらっしゃるでしょう。この経緯については、後で、資料室員の矢野の方から説明させていただきます。もともと経済学図書館は、大正8年に経済学部が法学部から独立したときに発足しましたが、当初から営業報告書、社史、官庁資料の収集に注力して参りました。

昭和29年に、そうした業務を主に担う経済学図書館内の一部門として、資料室がスタートいたしました。資料室は、戦前以来の仕事を引き継ぎまして、各省庁、あるいはその外郭の研究所や民間の研究機関の報告や資料、営業報告書等を集める仕事などを行って参りましたが、そのプロセスで、さまざまな民間企業、団体、個人、政府関係の一次資料の収集が始まりました。

企業や団体や個人の一次資料は、放っておけば散逸しがちです。しかし、歴史的な経済過程を正確に理解するためには、こうした一次資料は不可欠です。とりわけ1990年代にバブルが崩壊し、日本経済の失われた10年が進行する中で、この過程を分析す

るためには、これらの一次資料が包括的に保存される必要があります。そこで「この仕事の比重を高める必要がある」、「体制を強化する必要がある」という認識が強まりました。

こうした時に、幸い、名古屋の小島プレス工業の会長様から、東京大学経済学部に図書館振興のためということで巨額のご寄附をいただくことができました。このファンドにより、今日皆様がお集まりになっている建物が建ちまして、資料室がこちらに移って参りました。

これを記念し、資料室をアーカイブズとして発展させていこうということで、シンポジウムを開催させていただくに至った次第です。シンポジウムでは、国立公文書館、日本銀行金融研究所アーカイブ、東京文化財研究所に報告をお願いしております。我々の大先輩に当たるわけで、それらの機関でのご経験や教訓を、私ども東大の資料室の方に伝えていただければありがたいと考えております。併せて、一次資料をどうやって保存し、管理し、そして一般の研究やあるいは広い範囲で資料を必要とする方々に提供できるのかという、そういうノウハウも学んでいきたいと考えております。

以上で、開会の挨拶に代えさせていただきます。

(いとう まさなお:東京大学大学院経済学研究科教授・経済学図書館長)